

## 海外グループ会社の取り組み

### インド マルチ・スズキ・インディア社

マルチ・スズキ社は社会的責任活動(CSR)を通じて、社会貢献を果たしてまいります。地元住人の方々の福祉や生活の質の向上を図るべく、地域支援、職業訓練、交通安全、従業員によるボランティア活動に取り組んでいます。

マルチ・スズキ社ではCSR委員会を設置し、CSR活動方針を策定しました。2015年にはCSR委員会が2度開催され、CSR活動の実施状況確認、年次報告書の承認、及び活動に対する指示を行いました。

CSR委員会による活動内容の確認に加え、全てのCSR活動が毎月企業レベルで見直されています。さらに、法律および社内CSR活動方針に沿って、全てのCSR活動に対して、社内および外部法定監査が行われています。

2015年度には、“マルチ・スズキ財団”が設立されました。財団設立により、マルチ・スズキ社の社会活動の効率化の促進、パートナーシップの構築や相乗効果産出のための活動の更なるスケールアップなどが期待されています。

マルチ・スズキ社のCSR活動への支出額は年々増加しており、2015年度の支出額は2011年度に対し6倍以上になっています。2014年度に3億7,250万ルピー(約6億4,600万円)だった支出額は、2015年度には7億8,460万ルピー(約12億1,400万円)に達しました。

### 地域支援

地域社会はマルチ・スズキ社にとって重要なステークホルダーであり、CSR活動を通じハリヤナ州グルガオン、マネサル及びロータック、並びにグジャラート州ハンサルプール周辺の地域社会への貢献を行っています。

#### ●水道及び公衆衛生

地域住民との協議を通じ、マルチ・スズキ社は飲料水の確保、トイレの改善やごみ処理などの活動を行っています。2015年度の主な活動は以下の通りです。

- ・4.9Kmに渡る下水道の設置、及び舗装道路の修繕
- ・65名の清掃員を派遣
- ・1,400戸への家庭用トイレ設置、及びマネサルでの15地域への公衆トイレの設置
- ・公共水飲み施設の設置



#### ●教育

マルチ・スズキ社は地域社会及び政府の教育省と協力し、政府系学校のインフラ整備を支援しています。具体例としては男女別トイレの設置、教室の新設、ドア、窓、塀、飲料施設等建物の修繕、内装及び電機設備の設置、緑化活動及び什器の供給が挙げられます。こうした学校施設の設備援助はマネサル、グルガオン、及びロータックにおいて33,000人以上の児童が対象になっています。2015年度の主な教育関連活動は以下の通りです。

- ・学習レベル向上のため、補充教師の派遣、教師のトレーニング、近代的教育設備の教育などが盛り込まれた、ハリヤナ州政府との協議書を締結。
- ・158名の優秀な生徒に対し、高等教育を受ける為の奨学金を提供。
- ・生徒85名に成績優秀賞を贈呈。



## ●地方支援

村部の社会的繋がりを強化するため、2015年度に行った主な地方支援活動は以下の通りです。

- ・コミュニティホールの設置
- ・火葬場の修繕
- ・舗装道路の建設
- ・家畜病院の改装
- ・地域住民との定期的な話し合いを通じた、活動の優先順位付け

## 職業訓練

マルチ・スズキ社は、若年層の雇用適正を高め、企業への人材供給が可能となる様、職業訓練校(ITI)と緊密に連携して、以下の活動を行っています。

### ●公立職業・技術訓練校の質の向上

マルチ・スズキ社は訓練の質の向上を目指し、訓練施設の改善、生徒及び講師を含む全体的な技術力の向上、生徒及び講師に向けた職業体験、政府系ITI向けに産業指向の特別コースの提供を行っています。2015年度は、これら職業訓練校より1,749名の期間従業員、工場実習生がマルチ・スズキ社に就職しました。職業訓練校に対する支援活動は以下の通りです。

- ・講師の育成:講師の技能、振る舞い方、指導方法の改善を図るべく、講師の育成を実施。プログラムには、振る舞い方、就労文化、指導方法等が含まれます。2015年度は889名の講師が育成プログラムを修了しました。
- ・生徒の指導:規律、身だしなみ、コミュニケーション能力といったプログラムも含まれます。さらに、カリキュラムを補強するための追加コースが設定されており、業界固有の事情に沿ったコースの受講が可能です。スポーツや文化活動も奨励しています。2015年度においてマルチ・スズキ社は14,500名の生徒を訓練しました。
- ・施設充実:建物、機械、工具の補修、備品や教材を提供。2014年度は通信教育の講座を開設しました。
- ・産業界との連携:産業界の実情を学ぶ機会として、生徒及び講師をマルチ・スズキ社の工場へ招待し、さらに、各界からゲストを招き、ガイダンスや特別なトレーニングを実施しました。2015年度、マルチ・スズキ社は2,546名の生徒を招待しました。
- ・2015年度、マルチ・スズキ社は、インドで初となる板金塗装の養成コースをデリー市のITIブサ及びラジコット市のITIドーラジで開始しました。



### ●自動車産業における技能向上への取り組み

整備や板金塗装のような自動車業界に関連する技術を養成するコースを設立するため、マルチ・スズキ社はディーラーと共にインド全国に渡って複数のITIと技術提携を始めています。プロジェクトを通して、マルチ・スズキ社は研修施設の更新や、講師の育成、教材の提供、授業などを実施しています。ITIを卒業した生徒は、ディーラーのサービス工場へ就職します。

現在、自動車産業発展のため、27の州で141のITIと提携しています。この取り組みの下、延べ14,500人以上の生徒が訓練を受けました。直近2年間では、2,700人以上の生徒がITI卒業後、マルチ・スズキ社のディーラーのサービス工場に就職しており、また他社のサービス工場へも相当数の卒業生を輩出しております。

2015年度において、マルチ・スズキ社は一部のITIに自動車技能向上センター(ASEC: Automobile Skill Enhancement Centers)を設置し、ITIのレベルを引き上げる取り組みを行ってまいりました。ASECでは実際の研修環境を提供するため、サービス工場を併設しています。ITIの生徒の技能を向上させ、就職を支援するため、施設面での支援に加え、マルチ・スズキ社は常勤の講師を派遣し、工具や設備を提供し、地元のマルチ・スズキ社のサービス工場からの支援も得ています。



## 交通安全における取り組み

マルチ・スズキ社は運転技術向上や交通安全意識の啓発を目的とした、全国規模の交通安全プログラムを大々的に実施しています。交通安全推進を目指し、下記の取り組みを行っています。

### ●運転交通研究施設(IDTR: Institute of Driving and Traffic Research)

政府と連携して、乗用車及び商用車のドライバーのためのトレーニング施設を設立しました。科学的に設計された運転コースとシミュレーターを活用し、実践的なトレーニングが行えます。さらに、商用車ドライバーのために、健康管理指導やコミュニケーションの指導も行っており、熟練の認定インストラクターが座学と実際の運転指導を担当しています。マルチ・スズキ社はこれまでに6ヶ所のIDTRを開設して参りました。IDTRでトレーニングを受けた受講者は就職率が高く、例えばこれまでグジャラート州のIDTRでトレーニングを受けた受講者の80%近くが定職に就くことができました。



### ●マルチドライビングスクール(MDS: Maruti Driving School)

MDSはマルチ・スズキ社のディーラーと提携して開設され、IDTRより小規模な運転トレーニング施設です。IDTRと同等のトレーニングカリキュラムを用い、運転コースでの練習ではなく、実際の路上での指導を行っています。これまでに89名の女性がタクシー事業に従事しました。

2015年度は新たに31ヶ所のMDSを開設し、特別特定運転トレーニングコース「Unnati」を5都市で始めました。



### ●交通安全情報センター(RSKC: Road Safety Knowledge Centre)

都市部における交通安全を推進するため、ハリヤナ州交通警察と連携し、RSKCを設立しました。RSKCはIDTRにより運営されており、ハリヤナ州の10か所に設置されています。

交通違反者及び免許取得中の方に対し、交通安全と交通ルールに関する講習をRSKCで行っています。

### ●交通安全講師育成プログラム

マルチ・スズキ社は交通安全の講師の育成に力を入れています。このプログラムの目的は、ドライビングスクールの優秀な交通安全専任講師を育成し、インド全土にマルチ・スズキ社の基準に沿った講習を広めることにあります。講師候補生たちは、講師としての熟練度を高め、コミュニケーションスキルや指導能力を高めるための研修を受けています。2015年度においては、258名の新任講師と287名の従来からの講師が研修を受けました。

### ●トラックドライバーへの交通安全講習

2015年度はマネサール工場とグルガオン工場の構内にある運転教育センターにて、マルチ・スズキ社製の車輛を運送する45,000人以上のトラックドライバーに対し講習を行いました。

また、マルチ・スズキ社はトラックドライバーを対象とした1週間にわたる交通安全キャンペーン「ジャガリティ」を実施しました。このキャンペーンでは、健康診断、眼科検診の他、HIV検査および診察、またゲームやクイズ、大道芸など様々なイベントを行いました。さらに、安全運転を遂行し、車両を時間通りに傷つけることなく配送した優良ドライバーへの表彰も行っています。



### ●都市特定交通安全プログラム

グルガオンの交通警察と連携し、通勤・通学者の交通ルールについての啓蒙や運転技術の向上を目指して交通安全プログラム「Sabhya Road Bhavya Gurgaon」を実施しました。

●交通安全教育

マルチ・スズキ社は交通警察と連携し、様々なキャンペーンを通じ交通安全の重要性を啓発しております。2015年度は、15回の交通安全啓発キャンペーンを行い、100か所の学校で実施しました。

TOPICS

交通安全プログラム累計受講者数が300万人を達成

マルチ・スズキ社が2000年よりインド国内で取り組んでいる全国規模の交通安全プログラムの累計受講者数が2016年8月上旬までに300万人となりました。

マルチ・スズキ社ではインドにおける交通安全教育の推進についてもCSRの課題のひとつとして掲げており、2000年より乗用車、商用車を問わず車の運転を学びたい人を対象として、先進のドライビング・シミュレーターの導入など、科学的に設計された自動車運転教習プログラムを各種の運転教習施設にて実施しています。ドライバーの運転マナー教育や運転技術の向上にも取り組み、安全運転の重要性についてインド国民の意識を向上させてきました。

マルチ・スズキ社の交通安全プログラムを行う教育施設としては、「運転交通研究施設」、「マルチドライビングスクール」、「交通安全情報センター」の3つがあります。

従業員によるボランティア活動

従業員が社会貢献活動に従事する際に、従業員自らのボランティア活動は非常に有意義です。活動は日曜祝日に行っており、主な内容は、交通安全、教育活動、公衆衛生、農村支援に関するプロジェクトなどです。2015年度、マルチ・スズキ社の従業員は延べ1.5万時間以上様々な社会貢献活動を行いました。



洪水被災地へ支援活動

2015年11月から12月にかけて続いた集中豪雨により、インド南部のチェンナイ市に洪水が発生し、お客様や販売店が被害を受けました。自動車メーカー各社の工場やマルチ・スズキ社のサプライヤーにも被害がおよび、生産にも影響が出る事態となりました。

マルチ・スズキ社は今回の災害に対する義援金として、従業員からの寄付も合わせ2,000万ルピー（約3,100万円）を首相国民救援基金に寄付しました。また、マルチ・スズキ社と販売店メカニックを中心とした応援部隊を派遣し、被害に遭った販売店の復旧のサポートや、補給部品の供給安定化、ロードサービス車を利用した被災者の救済処理対応等の支援活動を行いました。



**インドネシア** スズキ・インドモービル・モーター社

スズキサポート活動(SUZUKI PEDULI)は、2008年から行われているスズキ・インドモービル・モーター社(SIM社)のCSR活動です。現在に至るまで、この活動はインドネシアのコミュニティーを社会的側面から継続して支援してきました。

直近である2015年から2016年に実施したCSR活動は次の通りです。

**スズキサポート活動**

● **専門学校への寄贈**

自動車の整備を学ぶ専門学校に対して、教材として四輪車、二輪車、船外機、及びエンジンを寄贈するCSR活動を行っています。

2016年3月末時点までの1年間に、四輪車、二輪車、船外機を合計37台、エンジン39基をジャワ島、バリ島の36の専門学校に対して寄贈しました。これらの最新の教材を使用することにより、インドネシアの自動車業界を担う学生に少しでも貢献していきたいと考えています。



● **学生の工場見学**

インドネシア全国の小学校から大学までの学生をスズキの工場に招待し、実際の製造の現場を学んでもらう活動を実施しています。2016年3月までの1年間に4校400名の学生をチカラン工場に招待しました。この活動は毎月実施しており、2016年度は3,000名の学生を招待する予定です。



● **孤児とラマダン断食明けをお祝い**

イスラム教では日中に断食を行う期間において、日が暮れてその日の断食が終わったことを祝う習慣があります。スズキ・インドモービル・モーター社では、毎年の断食月において、孤児院で生活している子供を招待し、断食明けを共に祝うイベントをタンブン、チャクン、チカランの3工場で実施しました。



**パキスタン** パックスズキモーター社

責任ある企業市民として行動するパックスズキ社は、特に教育、健康、環境保護活動の分野に貢献することを通して、社会をより良くすること、恵まれない人々の生活の質を改善することを目指しています。

**教育支援プログラム**

● **工学系学生への奨学金**

教育は社会を発達させる重要な役割を担っています。それゆえ、パックスズキ社は2013年に教育支援計画を開始しました。パックスズキは教育やキャリアの目標を追求する手助けをするために、2015年5月28日に「NED University of Engineering & Technology」の学生に47の奨学金を提供しました。



●スズキ・ボラン(バン)の寄贈

2015年6月5日、ミルプールカスの近郊に住む障害者の移動手段用として、特別スポーツ福祉協会(Gulistan-e-Mazooreen)にボランを寄贈しました。



●公立学校の建設と改修プロジェクト

「学校改善計画」のもと、バックスズキ社はラザカバード公立女子小学校を建築改修しました。当該プロジェクトは教室の床張り、学校建屋及びトイレの改修、生徒及び職員への備品供給、フィルターとスタビライザー付ウォータークーラー、音響機器、遊具及び栽培場の設置等を含んでいます。当該プロジェクトは2015年9月2日に完成記念式典を行いました。



●健康・安全・環境への自己啓発セミナー

バックスズキ社は2015年10月31日に社員の子供たちのために健康・安全・環境への自己啓発セミナーを実施しました。この取り組みの目的は定期的に健康の大切さ、安全に関する習慣及び自然保護への知識を子供たちに知ってもらうことです。工場見学も実施しました。セミナーには15人が参加し、閉会式で子供たちに認定証と寄贈品が送られました。



●耳の不自由な子供たちにスズキ・ボラン(バン)を寄贈

バックスズキ社は2015年12月11日にNoor-e-Ali Trus計画としてJSアカデミーにボランを寄贈しました。市街地から遠くに住む耳の不自由な子供たちの交通手段に活用してもらう目的です。



●高校奨学金制度

経済的に恵まれない学生やバックスズキ社員及び嘱託社員の子供に対し、ガバメント・カレッジ大学卒業までの教育を財政面で援助する目的として、2014年“Higher School&Graduation奨学金制度”を始めました。

2015年12月31日、90人に奨学金を授与し、奨学金対象者に対し工場見学、5S及び改善活動の研修会を開催しました。



## 環境保全活動

### ●植林

2015年9月29日、自然豊かな国や健全な環境向上を目的とした植林活動計画が完了しました。パックスズキ社の西側の場所に合計で1000本のコノカルプスの木を植えました。



### ●税関当局への寄付

2015年10月27日、パックスズキ社はEdulji Dinshaw通りの改修工事のために、カラチ税関へ50万ルピーを寄付しました。この改修工事計画は、混雑の緩和及びハブ機能を持つ道路にするための再設計・再改修も含まれています。



## 地域保健活動

### ●Hamdard財団に対し寄贈したスズキ・ボラン(バン)の無料点検サービス

在カラチ日本国総領事館は、Hamdard財団に対しボラン10台を寄贈しました。パックスズキ社は無料点検サービスの2年保証延長を提供すると発表をしました。



### ●地震被害者への寄贈

2015年10月26日、マグニチュード8.1の地震が、シャングラ、チトラル、スワット、バジャウル、マンセーラ、シャーサッタ、マラカンド等パキスタン各地を襲いました。パックスズキ社は2015年12月、地震被害者向けに、救急車20台と300セットのテントを寄贈しました。



### ●[Fatima Kidney Care Hospital]への透析機寄贈

透析治療患者の収容能力を増やすため、2016年3月7日、パックスズキ社は、[Fatima Kidney Care Hospital]へ透析機一台を寄贈しました。



●献血活動

サラセミアや血友病等の不治の血液病で苦しんでいる患者の救済を目的に、2016年3月14日、パックスズキ社は、「Indus Hospital」と共同で、パックスズキ社敷地内にて、献血活動を行いました。パックスズキ社と関係取引先の社員192名が献血を行いました。



●「Indus Hospital」へのスズキ・ボラン(バン)寄贈

2016年3月28日、パックスズキ社は、スズキ・ボラン(バン)を一台寄贈しました。この寄贈により、病院は、遠方地域での献血活動実施への要望に応えることが可能になりました。



VTI トレーニング

●職業訓練の実施

パックスズキ社は、VTI (Vocational Training Institutes)におけるトレーニングの質の向上を図るべく、二輪車・工具・展示版・マニュアル等の資材を提供することに加え、2015年4月・5月・11月・12月、2016年3月に、VTIの生徒向けに、二輪車及び四輪車のトレーニングを実施しました。

職業訓練への援助を行うことで、VTIの生徒に、冷却装置、エアコン、エアコンの故障診断等様々なスズキ製品への知識を習得してもらうことを目的としています。期間中に、504名の生徒が参加しました。





**タイ** スズキ・モーター・タイランド社

スズキ・モーター・タイランド社は、会社設立からまだ間もないため、社会的責任(CSR)活動は非常に重要な活動です。タイ国内でスズキブランドを広めるためにも、積極的にCSR活動に取り組んでいきます。

2016年からは、各課で選出された従業員を中心に「CSR活動委員会」を結成し、地域社会に貢献する活動を開始しました。

● **高齢者への生活雑貨品の寄付活動**

2016年4月に、工場があるブルックデー地域の高齢者集会を訪問し、生活雑貨品の寄付活動を行いました。



● **近隣児童への文房具支援活動**

2016年5月に、工場があるヘマラートイースタンシーボード工業団地からの呼びかけに応じ、近隣小学校の児童へ文房具の寄付活動を行いました。



**イタリア** スズキイタリア社

● **環境保全活動**

スズキイタリア社は、5回目となるSuzuki&Save the Greenという環境保全活動を開催しました。スズキイタリア社の社員が会社周辺の工業団地に投棄されたゴミを集め、環境美化に取り組みました。

● **安全運転講習**

お客様の事故を減らすため、スズキイタリア社は2日間に渡る安全運転講習Suzuki & Safeを無料開催しました。運転中に起こりうる予期しないハプニングに対するための理論的、実用的な対処法をお客様に提供しました。

● **寄付**

2015年12月、スズキイタリア社がスポンサーを行っているセリエAチーム、トリノFCの選手サインが入ったピタラToro Editionをオークションに出品しました。この収益は腫瘍を持つ子供の家族をサポートする団体Casa Ugiに寄付されました。



中国

スズキ中国社

●植樹活動

スズキ中国社は環境保護活動の一環として、2015年6月と10月に中国の内モンゴル、ウイグルなどの砂漠地域でスズキファンと一緒に植樹活動を展開しました。



●クリーンアップ活動

スズキ中国社は環境保護活動の一環として、2015年8月と12月に廈門と広州でスズキファンと一緒にクリーンアップ活動を実施して、海岸に捨てられたごみの収集を行いました。



●二輪安全運転講習

スズキ中国社はスズキバイクのユーザーを対象に、2016年4月に北京、6月に済南で「二輪安全運転講習」を実施しました。この講習により安全運転知識と運転中の不測の事態に備えるための方法をお客様に提案し、安全に大型二輪車を運転していただけるよう取り組みを行っています。



●スズキファン倶楽部

スズキ中国社は2013年にスズキやスズキユーザー、スズキに興味を持っていただいている方を中心に、スズキファンとの交流やコミュニケーションを強化するため「スズキファン倶楽部」を創立しました。安全運転講習、貧しい地域への物資支援や、植樹、ゴミ拾いなど環境保護に関する様々な活動を行っています。

2016年6月、四川省で貧しい子供たちに本やペン、洋服、スポーツ用品などを寄贈する慈善助学活動を行いました。子供たちが平等に学ぶ環境を提供できるよう支援しています。



ハンガリー

マジャールスズキ社

●スポーツ活動への支援

マジャールスズキ社(MSC)はエステルゴム市があるエステルゴム州とコマロム州に所在する、ボートクラブラグビーチーム、キックボクシング協会、卓球協会、サッカークラブ、合気道道場、アスレチッククラブ、マリア・ヴァレリア橋ランニング、カヤック・カヌー協会の活動に対する支援を行っています。

ハンガリーとスロバキアの国境にて開催されているハンガリー、スロバキアのチームによる水泳大会の支援を行っています。

若年層へのサッカー促進と健康的なライフスタイルを促進するために、8回目となるブジュカシュ・スズキ・カップを開催しました。



●文化活動への支援

毎年開催されているエステルゴムサマーシアター、Tastes-Eras-Feelings Esztergom local, Esztergom Festival Island、Spring Voice concert(ブダペスト)、Masterpieces of the History of Music (日本ハンガリーの室内オーケストラコンサート)等の文化イベントへの協賛活動を行いました。

●環境への取り組み

エステルゴム市内の清掃活動イベントに協賛しました。マジャールスズキ社、Esztergomi Futóművek Sports Club、エステルゴムの三者主催により清掃デーを開催しました。マジャールスズキ社はエステルゴム市内のスポーツクラブ、中学校をイベントに招待し、また、路上をできるだけ長くきれいに保つために、6つのゴミ箱を設置しました。



●地域社会への貢献活動

- ・エステルゴム市警察、自警団への車両提供
- ・エステルゴム市にて開催されるヘルスケアデーの協賛
- ・中小規模の起業家、サプライヤー、ビジネスパートナー、自動車業界との会議、セミナーにおけるプレゼンテーションの実施
- ・小中学校を対象とした工場見学を通じたボランティア活動
- ・ヴィシエグラドにて開催されたInternational Energetics and Innovation Forumのサポート
- ・年2回の社内献血実施



●教育への支援

エステルゴム市内のAngyalkert 幼稚園、ブダペスト市内のUnder the Rainbowインターナショナルスクール、ブダペスト市内の幼稚園との協力の下、マジャールスズキ社によって幼稚園教育会議が開催され、2015年10月9日、Under the Rainbowインターナショナルスクール、ブダペスト市内の幼稚園の児童がマジャールスズキ社によりエステルゴムに招かれました。

朝はヨガ教室から始まり、エステルゴムの幼稚園の児童はフェルトでの創作活動を、ブダペストの児童は折り紙の作り方を教えました。

午後には、幼稚園教育に関する会議が開かれ、幼少期から攻撃的な性格にならないようにはどうしたらよいか、児童に対してプレゼンテーションが行われ、ディスカッションがなされました。



●従業員への取り組み

マジャールスズキ社は、従業員の子供のための幼稚園を運営しています。

## ニュージーランド スズキニュージーランド社

### ●白血病と血液ガン基金の支援

スズキニュージーランド社は白血病と血液ガン基金・ニュージーランドを応援しています。この基金は、白血病や血液ガンと戦う患者や家族のサポート、情報発信、研究のための募金活動を実施しています。当社はこの基金に車4台を無償提供し、当基金の広報活動や患者支援を応援しました。



### ●子供病院の支援

スズキニュージーランド社は、ウェリントン子供病院に患者支援に使用される車1台を無償提供しました。



### ●高齢者の支援

スズキニュージーランド社は、シニアネットに車1台を無償提供しました。シニアネットとは地域のお年寄りを訪問しインターネットなどの使い方を教える組織です。



### ●スポーツ支援

スズキニュージーランド社は、Xレースのスポンサーとして、車1台を無償提供しました。Xレースは親子参加型アウトドアイベントで、家族一丸となったスポーツ参加、スポーツを通じた地域づくりを目指しています。



### ●障害者の支援

スズキニュージーランド社は、障害を持った子供たちが年に一度旅行に行き、様々な活動を体験してもらうプログラムに寄付を行いました。

## 海外生産会社の人材育成支援

(一財)海外産業人材育成協会(HIDA※:旧AOTS)の受入れ研修事業への参画、また海外生産会社からの研修生の直接受入れにより、社内の各部門で研修を実施しています。これらの研修は、海外生産会社の生産活動を支える実践的な技術や技能の移転を効率的に行うことで開発途上国の産業発展に貢献しており、また、わが国との相互理解や友好促進にも寄与しています。

※AOTSはJODC(財団法人海外貿易開発協会)と2012年3月30日に合併して財団法人海外産業人材育成協会(The Overseas Human Resources and Industry Development Association、略称:HIDA(ハイダ))となりました。

### 海外研修生受入会社(2015年度)

| 国名  |        | 会社名              |
|-----|--------|------------------|
| アジア | インド    | マルチ・スズキ・インディア社   |
|     |        | スズキ・モーター・グジャラート社 |
|     | インドネシア | スズキ・インドモビル・モーター社 |
|     | 中国     | 重慶長安鈴木汽車有限公司     |
|     | パキスタン  | バックスズキモーター社      |
|     | ミャンマー  | スズキ・ミャンマー・モーター社  |

- 2015年度の海外研修生の受け入れ人数：104人
- 受け入れを始めた時からの累計人数：22,564人  
(1983年度～2015年度まで)